

須々田 龍介（すすだ・りゅうすけ）

1、プロフィール

詩人、画家。詩誌「北方詩風」などに色彩感覚に富む詩を発表した。東京在住の一時期、棟方志功と知り合う。戦後は詩作を離れ、絵画制作で恵まれた資質を発揮した。

<生没>

1901(明治 34)年8月 14 日 ~ 1962(昭和 37)年1月2日

<代表作>

詩集『夜の花』

<青森との関わり>

南津軽郡大光寺村(現平賀町)出身。青森師範学校卒業後、高等小訓導。後東京府で教職。戦後、帰郷して病没。

2、作家解説

1901(明治 34)年8月 14 日南津軽郡大光寺村(現・平賀町)大字本町字北柳田 91 番地に生まれる。尋常小、高等小卒の後、1916(大正 5)年4月青森師範学校へ進む。大正 10 年3月卒業後、母校の柏木高等小学校訓導となる。このころから本格的に詩作した。大正 13 年上京、東京府荏原郡第二荏原尋常小学校訓導を初めとして、終戦まで板橋区・中野区の小学校に勤務し、荏原郡や杉並区に住居した。

大正 15 年4月、八戸町(当時)でパストラル詩社設立同人だった後藤健次によって「北方詩風」が創刊され、龍介も同人となる。「北方詩風」には、後藤の他にもかつてのパストラル詩社同人が名を連ねている。龍介は、同誌に5、6編の詩を発表した。東京では特定の詩派に属さず、同郷の詩仲間、画家の棟方志功・松本満史(まんし)らと交際しながら詩作を続けた。龍介の詩の特長は、優れて色彩感覚豊かなことである。晩年、絵画に熱中したことと無縁ではない。

1928(昭和3)年9月1日、詩集『夜の花』を自費出版。「北方詩風」に発表した作品など 25 編の詩を収めたものである。『夜の花』には、国際的に知られた詩人野口米次郎の序があり、その序から龍介が日参して執筆を懇願したことが知られる。

昭和7年3月、弘前市馬屋町の三浦美末(みすえ)と結婚届出、6月長女誕生。

戦後、病いに倒れ大光寺村に帰郷。その後詩作せず、絵画を制作しながら世を過ごした。昭和 37 年1月2日、死去、60 歳。

没後 12 年の昭和 49 年 11 月、青森市で「須々田龍介遺作展」(絵画)が開かれ画集『須々田龍介遺作集』が出版された。また、昭和 50 年1月2日、青森市北の街社から詩集『夜の花』が復刻出版された。

3、資料紹介

○詩集『夜の花』

図書

1928(昭和3)年9月1日

182mm×133mm

唯一の詩集。野口米次郎の「序」の後に「自序」として7行からなる詩がある。本編は「螢」から「詩人」まで 25 編の詩を収録する。発行者(須々田)住所 東京都荏原郡六郷町 406。昭和 50 年1月2日、青森市で龍介の弟英治を知る山田チツによって復刻された。